

INTERVIEW

日本企業初のトルコの病院 PPP事業への参画を支援

プロジェクトファイナンスおよび
ポリティカル・リスク保証を提供

産業ファイナンス部門 産業投資・貿易部第1ユニット

佐藤 崇之 ユニット長（当時）、石塚 亮 調査役（当時）、鈴木 葵 係員（当時）に聞く



石塚調査役・佐藤ユニット長・鈴木係員

トルコの病院PPP事業への
プロジェクトファイナンス
およびポリティカル・リス
ク保証を提供

JBICは、トルコの建設会社Ronesans Holding A.S.と日本の双日株式会社が
出資するIPSYが、イスタンブール市の
イキテリ病院PPP事業（病院の建設お
よび25年間の非医療業務の運営・管
理）を対象に、約813億円（JBIC分）限度
のプロジェクトファイナンス（PF）による
融資契約を締結しました。

本融資は、株式会社三井住友銀行、
日本生命保険相互会社、株式会社三菱
UFJ銀行、スタンダード・チャータード銀
行東京支店、第一生命保険株式会社、
株式会社伊予銀行との協調融資で、融
資総額は1,630億円です。

また、民間金融機関の融資の一部に
対してはJBICがポリティカル・リスクに
関する保証を提供するとともに、その他
の部分に対しても株式会社日本貿易保
険（NEXI）による保険が付保されます。



トルコ最大の総合病院の運営を支援

経済成長に伴い人口増加も進むトルコでは、国営病院
を国内に30ヶ所整備する計画が進められています。この計
画を促進するため、トルコ政府は民間の活力を導入する
PPP形式での病院プロジェクトを推進しています。特に、
2013年には、民間側の資金負担やリスクを軽減する法律
を制定して官民のリスクバランスを取る枠組みを構築した
ことで、民間の新規参入を促し、既に複数のプロジェクトが
実現しています。

「15件目となる今回のプロジェクトは、イスタンブール市
に、トルコ最大規模の総合病院（2,682床）となるイキテリ
病院を建設・運営するものです。建設を担うIPSYには、トル
コの建設会社Ronesans Holding A.S.（ルネサンス）と双日
が出資しており、開院後はトルコ保健省が医療サービス
を提供し、IPSYが25年間にわたり病院施設の運営・管理事業
をPPP形式で実施します。

JBICには、2015年1月に本件に対する融資検討依頼があ
りました。日本企業が出資者として運営・管理に携わり、日
本の病院運営ノウハウの海外展開にもつながる大型病院
PPP事業として支援を検討することになりました」と佐藤ユ
ニット長は説明します。

JBIC初の病院PPP事業への ファイナンスをまとめる

トルコ政府は、最大都市のイスタンブール市に建設する
大規模総合病院を、特に重要なプロジェクトと位置付けて
おり、早期開院を求めています。

「その期待に応えるため時間との闘いでした。JBICの病
院関係の実績では、2014年開院のインドのSAKRA World
Hospitalに日本企業とともに出資したケースがありますが、
PFでの病院事業への融資は初めてでした。イキテリ病
院の医療業務自体はトルコ保健省が実施することになっ
ており、IPSYの業務は病院施設の運営・管理に限定されて
いましたが、医療案件ならではのリスクである医療関連リ
スクにはどのようなものがあり、またそれがIPSYの業務か
ら切り離されているのか、慎重に見極める必要がありまし
た。このため、外部のアドバイザーの知見も活用しつつデ
ューディリジェンスを行い、またトルコに赴いて政府
関係者やルネサンスに対するヒアリングを通じた情報収集
も行いました。その他、これまでのJBICのインフラ向け
プロジェクトファイナンス案件の知見を活用することで、
過去の案件と比較した本件特有のリスクの洗い出しを効
率的に進めていくことができました。

本邦スポンサーである双日にとっても病院PPPの
取組は初めてでしたので、本件のファイナンス実現

国際協力銀行（JBIC）は、2017年7月、双日株式会社が
参画するトルコ法人Istanbul PPP Saglik Yatirim A.S.
（IPSY）の病院PPP（Public Private Partnership）事業に対
し、民間金融機関との協調で、約813億円（JBIC分）限度
のプロジェクトファイナンス（PF）による融資を行う契約
を結びました。なお、民間金融機関の融資の一部に対して
は、ポリティカル・リスクに関する保証を供与しました。
本プロジェクトは、IPSYがイスタンブール市にトルコ最
大規模の総合病院を建設し、25年間にわたり病院施設の運
営・管理事業をPPP形式で実施するものです。JBICにとっ
て、病院PPP事業向けの支援は初となります。



に向けて何度も協議を行いました。双日は本件への取組
の中で医療インフラ専門の部署を立ち上げる等、本件推進
体制を強化し、強い熱意をもって取り組んでいました」と石
塚調査役は語ります。

鈴木係員は、2016年末からIPSYの最大出資者で建設の主
体となるルネサンスの審査等を担当しました。

「ルネサンスは欧州での評価も高く、病院PPPプロジェクト
を複数受注していましたが、JBICの基準に沿って財務体質や
事業遂行能力などを精査しました。また、トルコ側の期待も
あり、融資関連契約書の調整にはスピード感をもって対応す
ることに努めました。協調融資を行う金融機関としても銀行、
生命保険会社が複数参画していましたから、その歩調を合わ
せることも重要でした」と振り返ります。

エルドアン大統領が調印式に出席

2017年7月21日にイスタンブール市で行われた調印式に
は、エルドアン大統領が首都アンカラ市から駆けつけました。

「トルコの病院PPPプロジェクトは既に十数件が動き出し
ており、トルコ国内だけでなく、医療インフラの充実を目指
すアジアや欧州の国々からも注目されています。日本でも、
政府の『健康・医療戦略』『未来投資戦略2017』などで日本の
医療サービスの国際展開の促進、日本企業が運営する現地
医療機関の設立支援などグローバル市場の獲得と国際貢
献を目指すことがうたわれており、今回のプロジェクトは大
きな意義をもっています。JBICは、今後も日本企業が参画
する医療プロジェクトを支援していきます」と佐藤ユニット長。

鈴木係員も調印式に参列しましたが、調印式ではエルド
アン大統領がスピーチされるなど、トルコ側からの大きな感
謝の意を感じたといいます。「イキテリ病院の完成予定は
2020年です。その進捗状況をきちんと見届けつつ、JBICの
病院関連融資のモデルケースになればと願っています」と
語っています。